

第 9 回リニア駅周辺整備検討会議の報告

日時：平成 29 年 3 月 24 日 10:00～

場所：飯田市役所 C311～313 号会議室

1 会議次第

1. 開会
2. あいさつ
3. 報告事項
 - (1) 伊那谷自治体会議の報告
 - (2) 第 8 回リニア駅周辺整備検討会議の報告
4. 協議事項
 - (1) リニア駅周辺整備基本計画（素案）について
 - (2) リニア駅周辺整備基本計画策定に係るスケジュールについて

2 おもな発言及び意見

3. 報告事項（1）伊那谷自治体会議の報告

- ・ 国土交通省では、リニアに関連してスーパーメガリジョン構想の検討が始まったが、中身がまだない状態である。具体化に向けて国が何を支援するのか関心が高い案件であるが、具体的な地域の取り組みが見えてこないと進まないの、伊那谷自治体会議でプロジェクトを具体化して整理して頂けるとありがたい。
- ・ 大都市の大災害時はどうするかについて、リニアを活用しながらやっていけるよう、山梨・長野・岐阜三県で連携して具体的なビジョンが出てくれば良い。

4. 協議事項（1）リニア駅周辺整備基本計画（素案）について

<第 1 章から第 3 章>

- ・ 若者が帰ってこられる地域づくりの中で、南信州全域の取り組み指針が出来れば良い。
- ・ 地域コミュニティを分断されてしまう。まとまりのあるものするため、コミュニティに関する事業を強く進めていって頂きたい。
- ・ P15 のコンセプトと P16 の四つの分類がどういう関係になっているのか分からない。P16 のまとめがあると P15 が薄まってしまう。また三つの重要課題が明確な形で次の章とつながっていないので、分かりにくく唐突感がある。P13 のトランジットハブ・道路ネットワーク部会の記述を整理した方が良い。
⇒ P15 のコンセプトについて、連携が分かりづらいのは確かなので整理したい。P13 についてもご指摘の通り修正したい。
- ・ P16 の三つの重要課題について、これだけ取り出しているのは不自然であり、この内容は全体として留意して取り組んでいく課題ではないか。
- ・ P7 の図については、P6 の飯田市土地利用基本方針の中で検討されている部分があると思われるので、直近の検討内容を踏まえて変更して頂きたい。
- ・ 基本方針 1 に高度なトランジットハブを形成するという事で、座光寺 SIC やアクセス道路、乗換新駅について書いて頂いている。リニア効果が上伊那に波及効果を広げるという意味で大変ありがたいと考えている。

- ・ 第3章まで流れがうまく示せていると思うが、P16の重要課題については、例えば再生可能エネルギーだけでなく、新エネルギーも含めて書いたらどうか。
- ・ 第二章の章立てだが、P8は伊那市や駒ヶ根市については写真が書いてあるが見えない。
⇒ 載せ方について検討する。
- ・ メガリージョン構想とリニアバレー構想をリンクさせるのがまさに重要である。飯田地域がどうしたいのかリンクさせないといけない。代議士を巻き込んで沿線地域全体の中でどういう位置づけになるか論議しておく必要がある。また国が何を期待しているか確認して地域課題とする等、キャッチボールが必要ではないか。
⇒ 今後、情報共有や交流の場が出てくるのではないか。重要なのは民間投資がやりやすくなるよう、色々な仕掛けを考えるのが大きなポイントである。
- ・ P1に長野県駅（仮称）とあるが、駅の名前が非常に重要なので、早めに飯田下伊那や南信州の名称を取り入れて発信をして頂きたい。

<第4章から第5章>

- ・ 座光寺地区はアクセス道路に地権者が多い。不安を持っている人が多いのでスピーディにお願いしたい。
- ・ P22に乗換新駅が触れられているが、地元の北条には必要性がないので不要ではないかという意見がある。私は伊那谷全体として捉えれば必要だと思っているので、地権者に影響が無いように進めて頂きたい。
- ・ P33に代替地確保が触れられているが、移転される方はどこに行くことになるのか心配しているので、出来ることであればいつまでに終えたい、と言って頂きたい。
- ・ 乗換新駅について地区で二点要望しているので、これについては外さないで頂きたい。
- ・ P29の表現では駅を出ると目の前に壁が出来るように思えるが、「高低差を感じさせない工夫」とはどんなことを考えているのか。
⇒ コンコースからそのまま続く建物内という形で広場に出る工夫や、広場空間をとって高さを修景とする等、調整していきたい。設計段階で考えていく。
- ・ P24に伊那谷を説明するページが設けられており分かりやすいが、それに比べてP25、26がシンプルなので、もう少し工夫が必要ではないか。具体的な駅舎の話が今後議論になっていくと思われる。駅舎のデザインについて書きこんでもいいのではないか。
⇒ 隈研吾先生達のレクチャーの中でも、地域の素材の使い方や新しい工夫で様々な使い方ができるご提案を頂いた。駅舎については重要であり今後検討していく。
- ・ 交通施設について、バス・タクシー・自家用車の記述があるが、レンタカー利用も重要であり、自動運転の技術も進んでいるので今後有効である。文章の中にレンタカーを盛り込んでも良いのではないか。
- ・ 魅力発信施設について、どんな形でどんな主体が運営していくのか、どんな施設ができるのか、第7章の「今後の進め方」にも関係するが具体的にどうするのか早めに議論をした方が良いのではないか。
- ・ リニア駅にはシンボリックなものが必要なのではないか。駅舎デザインと合わせての検討になるのかもしれないが、そういった検討も必要なのではないか。
⇒ 駅舎デザインに向けたものについては、JR東海との協議が先々必要だが、今回は期待する部分を記述に留まる。
- ・ P26の南北道路については、常時つながる道路にするのか、非常時のみ使用するのか、委員の間で意見が分かれたところである。表現については、そのような経緯を踏まえ

て検討し、市民の意見を聞きながら、南北道路のあり方を検討いただきたい。

⇒ まだ確定ではないため、含みを持たせる記述の方が良い。アクセス性にもつながる部分であり、うまく平常時も使えるような可能性を残したい。

- ・ 南北道路についてこのままの記述でいいのではないか。南北道路で地域が分断されるので、P23 の地域住民の利用と絡めてうまく表現ができれば良いのではないか。
⇒ P23 と P33 の地域住民の配慮については、ご意見を参考にして検討したい。
- ・ 資料 34 は非常に分かりにくい。また P29 はどこから見たのか非常に分かりにくいので、解説を加えてもらうか、どこを切っているのか分かりやすく説明してもらいたい。
⇒ 載せ方について今後検討する。
- ・ トンネルから出たところからの構造物がすべて高い付加価値がある。駅舎だけではなく、高低差があるので付加価値の高まるデザインとして考えて頂きたい。世界に冠たる構築物であり、デザインとして付加価値を持っている施設にしてほしい。
- ・ 調整池を水辺の空間として整備するのが良い。ただ P29 の写真がイメージとは違うので、その点は修正して頂けるとありがたい。
- ・ 魅力発信施設が、あんまり魅力のない遠慮した記載になっている。道の駅の機能など、具体的な計画を描いた方が良いのではないか。

<第6章から第7章>

- ・ 移転対象者の理解がないと進めないで、地元寄り添った配慮をお願いしたい。

<全体・まとめ>

- ・ 三つの大きな連携があったが、スーパーメガリージョンについては以前確認した上で進んでいると思っている。伊那谷全体としての連携は、もう少し書きこんでも良かったのでは。交流人口拡大部会で三都物語という意見が出てきている。伊那谷三市がどう一緒にやっていくか、売り出し方や打ち出し方など縦の連携を今後考えて頂きたい。
- ・ 駅と既存の中心市街地との連携をまじめに考えないといけない。
- ・ 地域が育て上げていく駅空間でなければならない。誰が考えて誰が作ったのか一般市民が勝手に知らないうちに出来たということにならないようにしないといけない。
- ・ パブリックコメントだけでなく、市民として駅づくりに関われる機会が今後も重要である。子供達に関わった記憶に残るやり方を行うべきである。
- ・ 今は二次交通に光があたっており、外から来るとそれが楽しみであるので、この地域はうってつけであり考えていく場を考えてほしい。
- ・ 新しい交通手段について、世の中の流れを見ながら遅れないようにしていただきたい。今後出てきた時に対応できる余地を残して頂きたい。
- ・ 高い乗換利便性が実現できるように、基本計画から設計に至るイメージが出来るよう可能であれば修正頂きたい。
- ・ グリーンインフラなど多面性を重点に議論してきたので、記載して頂いてありがたい。また地域の人が集える場に出来れば良い。
- ・ P29 の断面が分かりづらいという発言があったが、もう少し分かりやすくできる余地があるので、人の利用と空間の記載の工夫をお願いしたい。
- ・ リニアと伊那谷が見えるのは一つの財産なので、そうした記載の検討をして頂きたい。

4. 協議事項（2）リニア駅周辺整備基本計画策定に係るスケジュールについて

- ・ 4月にパブリックコメントを行うが、資料をセンターに置くだけでなく、説明会を開く中で説明を行ってまいりたい。